

# TOYOTA *MARINE* Ocean Style

Aug 2018 Vol.7

Proposed  
the Play of Ocean



広 告



Proposed the Play of Ocean

# TOYOTA MARINE Ocean Style

Aug 2018 Vol.7

## CONTENTS

### 4 | MESSAGE FROM TOYOTA MARINE

### 6 | EVENTREPORT 1 LEXUS Sport Yacht Concept 日本ボート・オブ・ザ・イヤー2017 特別賞受賞

### 8 | EVENTREPORT 2 日本最大のマリンイベントに LEXUS Sport Yacht Concept 初出展

### 12 | EVENTREPORT 3 LEXUS Sport Yacht Concept 開発ストーリー

### 14 | ENJOY MARINE SPORTS トップマネジメントが揃って楽しむ マリンスポーツの魅力とは

### 18 | LUNCH CRUISING in 佐島 PONAM-28Vで船上ランチのススメ 休日を佐島で過ごすことの贅沢さ

### 22 | CHALLENGE FISHING in 横須賀 1軸TVASで飛躍的にラクになる ボートフィッシング

### 24 | 東京の街を海から眺める贅沢な時間 LEXUS TOKYO PREMIUM CRUISE

### 28 | MARINA DIVIDE VOL.8 マリーナ探訪 富士マリーナ

### 30 | PONAM LINE UP ポーナムラインナップインフォメーション

### 32 | トヨタ認定中古艇「CUB」



## MESSAGE FROM TOYOTA MARINE

復刊によせて

「Ocean Style」は、しばらく休刊しておりましたが、多くの皆様から復刊のご要望を頂き、2年半振りの発刊となりました。マリンライフの魅力や可能性を再びお届けできる事を嬉しく思います。

さて、マリンのトップシーズンが到来しました。抜けるような青空と透き通った海。ボートオーナーなら皆が経験している魅力的な世界です。

私は今年のゴールデンウィークに、ポーナムに乗って、ボートの航行訓練と安全祈願の為に、伊勢志摩ヘクルージングに行ってきました。職場のみんなと海に出て、釣りやクルージングを体験することで、お客様目線での改善点が見えてきます。私は、もっといいボートをつくるためのヒントは、海の上にあると思っています。

トヨタマリンは、3月のボートショーで「LEXUS Sport Yacht Concept」を一般公開し、同会場にてレクサスブランドの市販モデルの構想を発表しました。レクサスブランドに相応しい65フィートのプレミアムスポーツヨットは、2019年に米国、オリンピックイヤーの2020年に日本で発売予定です。どうぞ、ご期待ください。

これからもトヨタマリンは、モビリティカンパニーの一員として、海の『FUN TO DRIVE』を引き続き、ご提案してまいりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

トヨタ自動車株式会社  
マリン事業室 室長  
上田 孝彦



# LEXUS Sport Yacht Concept 日本ボート・オブ・ザ・イヤー2017 特別賞受賞



今年3月に開催されたジャパンインターナショナルボートショー2018にて、レクサスブランドの高級クルーザー「LEXUS Sport Yacht Concept」が「日本ボート・オブ・ザ・イヤー2017 特別賞」を受賞した。当日は集まった大勢の報道陣に対し、友山副社長から「コンセプト艇」の紹介と「LEXUS Sport Yachtの商品化」についての発表が行われた。



授賞式にはトヨタのマリン事業を牽引する友山副社長も駆け付け、プレゼンターを務めたテリー伊藤氏から表彰状を受け取った。ステージ上では集まった来場者とマスコミに対して、開発の経緯や受賞の喜びを述べた。

## INTERVIEW 1

### コンセプト艇開発の背景

**友山副社長**…このボートの開発は、社長の豊田のトップダウンで始まりました。約3年前のある日、豊田から「海のと真ん中に、自らを解放できる隠れ家のような空間はつくれないか」と問われました。また、意味不明なリクエストが下ったと、途方に

くれましたが、この社長の言葉を機に全く違うアプローチで新しいボート造りに挑戦してみようと言う事になりました。それからと言うものの、自らを解放できる海のモビリティとはどんなものか、日常から非日常への解放とはどんなものかを突き詰めて参りました。そうして出来上がったのがこのボートです。



## INTERVIEW 2

### コンセプト艇の特徴

**友山副社長**…このボートの特徴について簡単に触れたいと思います。まず、お伝えしたいのは「デザイン」です。これまでクルマで表現してきた、レクサスのデザインフィロソフィーをクルーザーという新たな形で具現化しました。立体的なフォルムと曲線美を追求し、優美、かつ躍動感のある、これまでに誰も見たことの無いスタイリングを実現しました。2つ目は、世界最先端の自動車技術とボート技術を融合した

「高い走行性能」です。エンジンには、LEXUS-FモデルやLC500に採用されている2UR-GSE V型8気筒 5リットルエンジンを船舶用にチューニングし、2基搭載しています。また、船体構造は、フルカーボンとし高い剛性と軽量化を実現しました。3つ目は、「先進のコックピット」です。操縦席には、タッチパネル液晶ディスプレイを用いた統合インストルメントパネルを採用。オーディオシステムには、レクサスで採用されているマークレビンソン製サウンドシステムを搭載しています。

## INTERVIEW 3

### 商品化について

**友山副社長**…このLEXUS Sport Yacht Conceptの開発を通じて我々は多くの事を学びました。そのノウハウ・経験を活かし、レクサス・スポーツ・ヨットの商品化を行いたいと思います。「発売時期・販売国」については2019年後半に米国、2020年春に日本での発売を予定しております。「生産場所」はコンセプト艇と同じく、米国のボートビルダー、マーキー・ヨット社です。マーキー社のボート造りのノウハウに、トヨタ生産方式を導入することで、レクサスに相応しい品質を造り込んで行きたいと

考えております。「サイズ」については、42フィート（約13メートル）のコンセプト艇から拡大し、65フィート（約20メートル）を予定しております。また、革新的なデザインはそのままに、十分な居住スペースを確保し、乗船人員はコンセプト艇の8名から、15名となります。トヨタが20年間のマリン事業で積み上げてきたノウハウを、レクサスが提供する、Experience Amazingとして昇華させた全く新しいオープンクルーザーに仕上げたいと思いますので、是非、ご期待頂きたいと思います。



1.特別賞を受賞した「LEXUS Sport Yacht Concept」のデッキエリアではフォトセッションも行われた。2.両サイドに特徴的な形状のシートを配置したデッキレイアウトを採用。3.革新的なデザインのヘルムには大型のタッチパネル式液晶ディスプレイを装備。4.サロンは光沢のあるブラックガラスのフローリングにU型のソファを配置し、洗練された空間を演出。5.トヨタブース内では囲み会見も行われ、開発の経緯や「LEXUS Sport Yacht」の販売計画が発表された。



パシフィコ横浜に設けられたトヨタブースでは左側でレクサスブランドの紹介を行い、右側でポナムシリーズの市販モデル2艇(PONAM-28V・PONAM-31)の展示を行った。

## 日本最大のマリンイベントに LEXUS Sport Yacht Concept 初出展

3月8日(木)から11日(日)の4日間、神奈川県横浜市内で「ジャパンインターナショナルポートショー2018」が開催された。今年もパシフィコ横浜では2018年ニューモデルなど最新のマリン製品が屋内で展示され、横浜ベイサイドマリーナでは大型艇の海上展示が行われた。今年のポートショーには

レクサスブランドの高級クルーザー「LEXUS Sport Yacht Concept」が初めて一般公開され、連日来場者から高い注目を集めていた。開催期間中は天候が安定しなかったにもかかわらず、来場者数は前年を超える約5万3千人を動員。ポートビジネスの伸長を感じさせる大きな賑わいを見せていた。

# JAPAN BOATSHOW2018

## INTERNATIONAL

“4日間で約5万3千人が来場”

### 200を超える企業・団体が出展

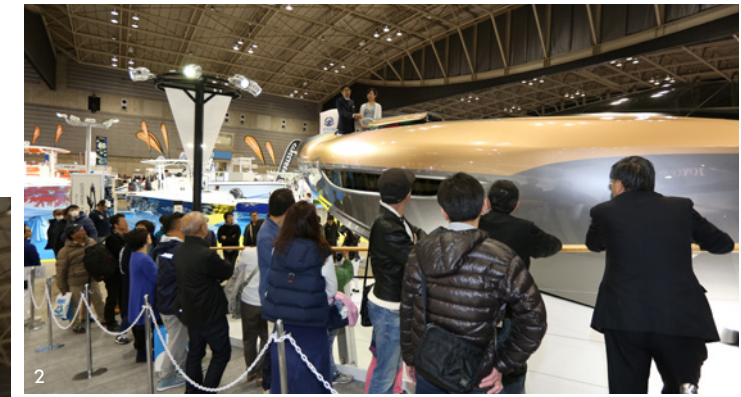
今年のポートショーは「海・心満たされる時間・・・」をテーマに222の企業・団体が出展。2018年のニューモデルを中心にプレジャーボート、ヨット、水上バイク、スモールボート、カヤック等、約230隻が集まり、マリンエンジンも約60基が展示されていた。他にもボート免許案内やマリーナ等のPRブースも多数出展されており、最新のマリン情報が集約されたイベントとなっていた。



レクサスブランドからは「LEXUS Sport Yacht Concept」だけでなく、ラグジュアリークーペとして高い人気を誇る「LEXUS LC500」も展示された。

## ボートショーは「毎日楽しい」

屋内展示が行われたパシフィコ横浜では会場にイベントステージが設置され、期間中はボートオブザイヤー2017の発表、STU48のトークショー、ファッションディレクター千場義雅氏のトークショー、海洋冒険家 白石康次郎氏の特別講演等の様々なイベントが毎日開催されていた。他にもマリンの楽しみ方をレクチャーしてくれる「海ゼミ」が全16講座開催され、集まった参加者に対し、レクサスポート開発秘話、ミニボートの遊び方、女性向けのメイクアップ術、ドローン空撮ノウハウ等を紹介しており、全ての講座を合わせると約670名の来場者が参加した。更には9日(金)のみ開会時間が20時まで延長される「プレミアム・ナイト」が開催された。ステージ上では「MAYA HATCH」さんによるスペシャルライブが開催され、昼間のボートショーとはまた一味違う特別な空間が演出されていた。また、海上展示が行われた横浜ベイサイドマリーナ会場には中型艇～大型艇まで52隻が集結し、フィッシャータイプのボート、洗練されたクルージングボート、大型ヨット等が並ぶ壮観な光景となっていた。会場では体験操船をはじめ4つのプログラムが開催され、約300名がボートやヨットに乗船し海を楽しんだ。



## トヨタブースも連日の大盛況

パシフィコ横浜に出展したトヨタブースの目玉は何と言っても高級車「レクサス」ブランドのクルーザー「LEXUS Sport Yacht Concept」である。こちらは4日間を通じて、常に大きな注目を集めており、船内の見学を希望する来場者が連日長蛇の列をなしていた。クルーザー以外にもレクサスのラグジュアリーモデル「LEXUS LC500」の展示もあり、ブース内ではレクサスブランドの陸・海の注目モデルが同時に展示されるという非常に贅沢な内容となっていた。また、ポーンムシリーズの人気モデル2艇「PONAM-28V」「PONAM-31」の展示やポーンムに使用されているエンジンやハルの素材、更には操船支援システムの紹介も行われており、来場者は一つ一つの展示に熱い視線を向けていた。この4日間、トヨタブースは連日の大盛況となり、ボートショーに訪れた多くのマリンファンに強いインパクトを残したのである。

トヨタブースの応援に駆けつけたマリーナ及び販売店スタッフの皆さんと最後に記念撮影。



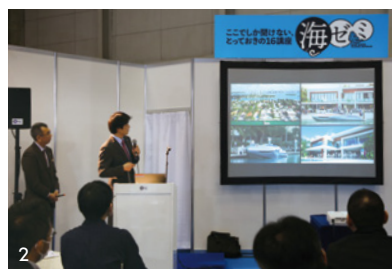
1.初の一般公開となった「LEXUS Sport Yacht Concept」を見学する来場者で、トヨタブースは連日の大盛況となった。2.開催期間中は定期的にトークショー形式で「LEXUS Sport Yacht Concept」の説明が行われていた。3.操船支援システムを解説する展示ではゲーム形式でTDAを使った着岸を体験できた。4.ボート用にマリナイズされたエンジンの展示も行われた。5.こちらの展示ではポーンム28Vに採用されているハイブリッドハルの構造が分かりやすく説明されていた。



# LEXUS Sport Yacht Concept

## 開発ストーリー

ボートショー企画「海ゼミ」で語られた、  
コンセプトボート開発までの道程



ボートショー開催期間中にパシフィコ横浜会場にて開催された「海ゼミ」。「楽しく学べるマリン」を合い言葉に全16講座が開催され、ビギナーからベテランまでが楽しめる内容で連日賑わいをみせた。この「海ゼミ」ではLEXUS Sport Yacht Conceptの開発担当者によって、プロジェクトスタートから完成までのストーリーが紹介された。



1. LEXUS Sport Yacht Conceptのグラマラスで美しい曲線形状の船体は特に注目のポイントの一つ。職人の繊細な磨き上げにより左右の均衡がとれ、美しいフォルムを実現している。2. ボートショー会場で開催された「海ゼミ」では開発時の印象的な出来事や思い出を時折ユーモアを交えながら紹介していた。3. 連日大きな話題を集めていたボートということで、その開発ストーリーに興味を持った多くの来場者達がイベントエリアに集まっていた。

2015年7月

### 開発キックオフ

豊田社長の一言で動き出したこのプロジェクトはボートの大きさと初期のデザイン案を決める中で、「誰の設計」「どこで作るか?」という検討から始まった。外観のスタイルデザインは、トヨタ社内のレクサスデザインチームが担当することになったのだが、そのデザインを設計し、カタチにする企業を選定する必要があったのだ。企業選定に当たっては、トヨタマリンの中

で幾度も熱い議論が交わされ、その結果、構造などの基本設計はイタリア、生産をアメリカのマーキー&カーバー社で行うことで合意した。そして、2015年7月にはついにキックオフミーティングが開催され、ミーティングでは当時の友山専務が直々に激励に訪れ、協力企業に対してトヨタがこのボートにける本気度を伝えたのである。開発を始める前には田原工場でレクサス製造現場の視察も行われ、「レクサス品質」に対する関係者による考え方の共有も図

られた。そして、プロジェクトが始まって5ヶ月が経過した同年12月には1分の1モックアップモデルができ上がり、スタイル確認と内装の詳細決めが始まった。この工程ではデザイナーと開発担当者達の間で、家具の形、色、柄などがレクサスのテイストを加えながら一つ一つ慎重に決まっていたのである。

### 徹底した生産管理

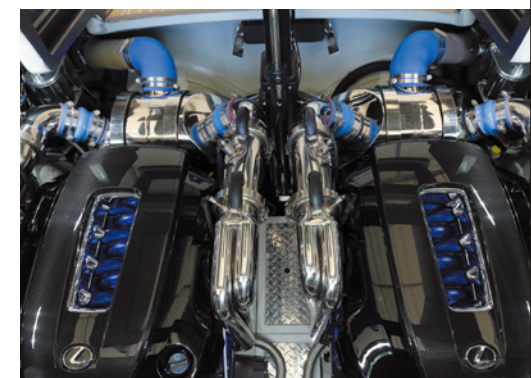
2015年の夏から動き出したLEXUS Sport Yacht Conceptの開発は年が明けた1月には型の制作に着手、3月にはハルができ上がり、本格的な組立が始まった。この工程では確実に「レクサス品質」を実現すべく、トヨタから3人のエンジニアがほぼアメリカに常駐状態となり生産を監督して

いた。こうした徹底的な生産管理体制により、LEXUS Sport Yacht Conceptは高いクオリティで生産されていくのであった。

### 搭載エンジンの開発

LEXUS Sport Yacht Conceptのエンジン開発は冒頭7月のキックオフミーティングよりも更に前、開発企画ができた時点から既に始まっていた。搭載されるエンジンにはレクサス最高峰の高回転、高出力を誇り、LC500, RC-Fなどにも搭載される2UR-GSEを選択。このエンジンをボートに搭載するためマリナイズすべく、開発委託先の選定が行われ、マリナイズ部品の設計・製造はレースチームで有名なサードの関連会社シグマオートモティブ、ECUとハーネスの設計はトヨタテクニカルディベ

ロップメント、そして、制御適合チューニングは豊田自動織機に依頼することになった。マリナイズする過程では様々な課題を乗り越え、クルマ用のエンジンの改造・強化に成功し、マリナイズされた専用エンジンが完成したのである。



エンジンはLEXUS LC500やRC-Fなどに搭載されている2UR-GSEをボート仕様へマリナイズし、2基搭載している。

2016年8月

### カップリング・塗装

ハル完成の後、組立作業は順調に進み、8月頃にはデッキをかぶせる「カップリング」の作業段階に入っていた。全長12m以上、横幅3.9mもあるハルとデッキは全て曲線状になっており、誤差なく合わせるのは至難の技だが、マーキーの職人たちは事なげに、ピッタリと合わせてしまった。また、

開発担当者達が一番神経を使ったポイントはボート外観のグラマラスな曲面形状で、ゆがみやひずみがないように仕上げつつ、左右のバランスを均等に保っている。全体の形自体はNC加工で作った型によりできてはいるが、最後の仕上げは手作業での磨き上げが必要なため、バランスを取りつつ調整していくのは非常に繊細な作業であった。それでも、根気強く現地の職人と

やりとりを重ね、丁寧に磨き上げを繰り返すことで、ついに理想的な形を造ることに成功したのである。その後、行われた塗装工程も順調に進み、シルバーとゴールドを基調に美しい色合いで塗装されていった。外観の曲面形状と船体塗装が完璧に仕上がったことで、LEXUS Sport Yacht Conceptは見た目ではほぼ完成という段階にまで到達したのであった。

2016年9月

### ついに完成

長きに渡るプロジェクトもいよいよ塗装が終われば後はエンジンのチューニングのみだ。9月下旬にはミシガン湖グリーンベイにあるサウスベイマリーナで初めて水に浮かべられ、事前に適合した制御確認とチューニングを完了させ、ついに完成の瞬間を迎えたのである。その後、陸路でマイアミ入りし、2017年1月に世界中から高い注目を集めたマイアミでのローンチイベント

で世界初公開されたのである。マイアミでのローンチイベント以降、LEXUS Sport Yacht Conceptは日本のボートショーでもボートオブザイヤー特別賞を受賞する等、高い注目を集め続けた。今回の海ゼミでは

そんなLEXUS Sport Yacht Conceptの開発～完成に至るまでの過程や開発担当者達の仕事にける情熱が分かりやすく伝えられていたのである。

ローンチイベントには世界各国のジャーナリストやリポーター達が参加した。



# LEXUS Sport Yacht

# Concept



1.水上バイクを自由に乗りこなす豊田社長。まるで童心に返ったかのごとく楽しそうに操船する姿が印象的だった。2.高速走行から切れ味鋭いコーナーリングまで、高い操船スキルを披露してくれた。3.同じく水面を駆ける友山副社長。こちらも上級者顔負けの爽快な走りを見せてくれた。



## 豊田社長と友山副社長が「素の自分」に戻る時間 トップマネジメントが揃って楽しむ マリンスポーツの魅力とは

水上バイクに乗ればレーサーのごとく水面を自由自在に駆け抜ける。そして、クルージングでは仲間達と「完全にプライベートな空間」で心の底から海を楽しむ。トヨタのマリン事業を率先して引っ張る豊田社長と友山副社長をこんなにも素敵な笑顔にさせてしまうマリンスポーツの魅力とは一体何なのか。美しい海でマリンスポーツの楽しさに触れる2人に迫った。

### 自然体で楽しむ水上バイク

水上バイクに乗った2人が気の向くままにハンドルを切ると、水面には白い航跡が浮かび上がる。広い水域では安全を確認した後、スロットルを開放し、トップスピードまで加速させる。近年のモデルは高馬力化が進み、最高速で乗りこなすにはそれなりのスキルも必要だが、2人のライディングを見ると実に滑らかで、完全に乗りこなしている。そして、一番に感じたことは本当に楽しそうに操縦しているという点だ。自分の走りたい場所を自分の走りたいスピードで、自由自在に走行する様子は見ていてとても清々しく、大自然に自分を解放し、自然と一体となってツーリングを楽しんでいる様子であった。これこそが水上バイク本来の魅力なんだと、こちらも改めて認識することができた。



マリンスポーツはトップマネジメント達を、ここまでの笑顔にしてくれるのだ。2人は心からツーリングを満喫している様子だった。

## クルージングで仲間と海を堪能

クルージングで海に出ると、そこは自分達だけのプライベートな空間に早変わりする。普段はトヨタ自動車を牽引し、多忙を極める2人も、海の上では笑顔が弾け、いつもより表情が柔らかく見える。ゲストや仲間とクルージングを楽しむだけでも、非日常を感じることができ、気分転換にもなるのだ。美しい自然の風景を見て、写真撮影や会話を楽しむだけでなく、食事やドリンクを楽しむこともできる。海に浮かび、完全にプライベートな空間で仲間やゲストと過ごす時間というのは、2人を心身ともに癒すだけでなく、それぞれが会社を背負う立場ある人間から「ひとりの人間」に戻す時間でもあるのだ。



海の上なら仲間やゲストとゆったりとした非日常を共有できる。



気持ち良さそうにクルージングしながら、穏やかな表情で談笑する2人。

## 釣りは誰よりも真剣に

四方を海で囲まれた日本では、全国各地で、四季折々のボートフィッシングが楽しめる。ゴールデンウィークの三重県志摩沖に浮かぶPONAM-45の船内にはトヨタのマリン事業を牽引する友山副社長の姿が。スタッフに混じって釣りに興じるその表情は誰よりも真剣だ。仕掛けの着底を確認すると、ゆっくりと巻き上げ根魚を誘い出す。その後ろ姿を見ていると、今にも掛か

りそうな雰囲気かにじみ出ている。すると、本当に図ったかのように竿先が一瞬グッと沈み込む。次の瞬間、竿先が瞬時に持ち上がり、抜群のタイミングで合わせが入る。ゆっくりと慎重にラインを巻き上げると、良型のカサゴが上がってきた。魚を釣り上げた後の笑顔を見ているだけで、こちらにまで楽しさが伝わってくる。この笑顔こそが、心から釣りを楽しまれている証なのかもしれない。

絶妙なアクションで魚を誘い、この日誰よりも早く良型のカサゴを釣り上げた。



## カツオトロリングにチャレンジ

この日は志摩沖にカツオの群れが入っており、前日の釣果情報も沢山入っていたため、トロリングにもチャレンジすることに。PONAM-45に乗ったメンバー全員で鳥の群れを探していると、ボートの周辺にカツオがボイルしているポイントを見つけた。急いでポイントに入りルアーを流し、ワクワクしながら待っているとすぐにヒットした。スムーズに回収できれば、より多くのチャンスを得られるため、ここからは時間との勝負も始まる。ここは友山副社長自ら釣り上げるのだが、ラインを回収する時に見せたカツオを追いかける表情が最高に輝いていた。満面の笑みで海と向き合う姿を見ていたら、マリンスポーツはここまで人の表情を豊かにし、日常の喧騒から非日常へと導いてくれる素晴らしい遊びであるということ改めて感じることができた。トップマネジメントが先頭に立って海を楽しむトヨタのマリン事業はこれからもボートを通じて、誰もがワクワクするような新しいマリンライフを提案してくれるに違いない。

1.カツオのナブラを発見し、周辺にルアーを流す。いつヒットしてもおかしくない状況の中、真剣な眼差しでルアーを注視する。 2.ヒットしたカツオを自ら船内まで手繰り寄せ、見事キャッチに成功。 3.短時間のトロリングではあったものの、3本のカツオを確保した。



## 海上で楽しむ非日常のランチタイム

# PONAM-28Vで 船上ランチの ススめ



ポートに乗って海に出る。もはやこれだけでも、非日常と言えそうだが、せっかく海に出たのだから、船上でお洒落なランチも楽しんでみてはどうだろうか？ ランチをケータリングしてポートに積み、クルージング先で食べるのだ。360度を海に囲まれた絶好の席で食べる食事はきっといつもより格別美味しく感じるに違いない。

美しい自然に囲まれた油壺湾にポートを泊め、ケータリングしたランチを食べる。こんな贅沢なランチタイムを過ごせるのも、ポートの特権だ。

## 1965年創業の歴史ある マリンリゾートから出発

船上ランチを楽しむに当たり、ロケーションは重要な要素の一つだ。海上での食事となるため、できれば波が穏やかで揺れが少なく、飽きのこない美しい景色が眺められる場所が望ましい。せっかくのランチタイムにポートが終始波で揺れ続けたら、ランチどころではないのだ。そんな条件の揃ったクルージングポイントを教えてくれたのが、今回撮影にご協力頂いた神

奈川県横須賀市にある佐島マリーナだ。ここは三浦半島の西側に位置し、相模湾を拠点に釣りやクルージングを楽しめるマリーナである。最寄りの横須賀ICからは車で約12分とアクセスも良好な為、都心からも非日常を求めて多くの人が足を運ぶ。創業は1965年と非常に長い歴史があり、マリーナにはホテルやレストランが併設されている。今回のランチクルージングではここを拠点にマリーナがお勧めしてくれた油壺湾を目指し、クルージングすることにした。

## 本格派レストランで ランチをケータリング

ケータリングするランチはホテル内にある「ベイサイドレストランカフェ モア」にお願いした。ここは葉山牛ハンバーグや佐島産のしらす丼といった地元食材を使ったランチはもちろん、本格派のフレンチも楽しめるレストランで料理のクオリティは非常に高い。そして、レストランではランチと約40分

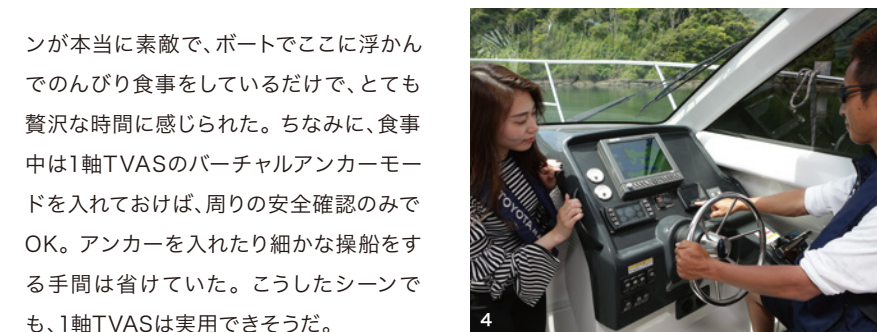
のクルージングがセットになったランチクルーズのサービスも行なわれており、そのクルージング艇にはPONAM-28Vが使われている。もともとはレストランで食事をした後にクルージングに行くサービスだが、マリーナでもランチをケータリングしてクルージングに向かうプランを検討中とのこと。可愛いBOXに入ったランチをPONAM-28Vへ積み込んだら、油壺湾に向けてクルージングの始まりである。



1.後方に見える建物は東京大学三崎臨海実験所で、設立は1886年(明治19年)まで遡る。2016年には130周年を迎えた歴史ある建物である。2.プレートの上にケータリングしたランチを並べる。ライ麦パンのサンドウィッチを中心にとってもお洒落な見栄えで、SNS映えも抜群である。3.きれいな水と緑豊かな自然が広がる油壺湾ではジャングルクルーズのようなワクワク感が楽しめる。湾の奥にはヨットハーバーもある。4.湾内の安全な場所ではTVASのバーチャルアンカーモードを使用。

## 美しい自然に囲まれて ランチタイムスタート

油壺湾の安全な場所にポートを泊め、積んであったランチBOXを開ける。中から美味しそうなライ麦パンのサンドウィッチが出てくると、思わず食欲をそそられる。他にも、ポテト、サラダ、コーヒーと入っており、ボリューム的にも丁度良さそうだ。サンドウィッチはふわふわとした食感のライ麦パンにジューシーなハムと新鮮なレタスが挟んであり、シンプルだが一つ一つの食材にしっかりと手が込んでいる。そして、何よりこの油壺湾というロケーショ



ンが本当に素敵で、ポートでここに浮かんでのんびり食事をしているだけで、とても贅沢な時間を感じられた。ちなみに、食事中は1軸TVASのバーチャルアンカーモードを入れておけば、周りの安全確認のみでOK。アンカーを入れたり細かな操船をする手間は省けていた。こうしたシーンでも、1軸TVASは実用できそう。

油壺湾に向けて佐島マリーナを出発。この日は天候にも恵まれ、絶好のクルージング日和だ。



# 休日を佐島で過ごすことの贅沢さ



1. 3段に分かれたプレートとフリードリンクを楽しめるアフタヌーンティーセット。見た目も色鮮やかで、どれも美味しそうなものばかりだ。 2. オードブルは一口サイズになっており、美味しい料理を少しずつ楽しめるので、女性達にも喜ばれそうだ。



## 相模湾を一望するお洒落なレストラン

ランチを食べた後は相模湾をのんびりクルージングしながら、マリーナに帰港した。ここは本格的なレストランとホテルがあるので、クルージング終わりにそのまま宿泊しても良い。先に述べたように、質の高い食事が楽しめ、きっと疲れて空腹になったお腹を満足させてくれるだろう。今回のように軽くランチを食べた後なら、アフタヌーンティーセットがお勧めだ。このメニューは3段のお皿がツリー状に構成されており、下からフィンガーサイズのオードブル、サンドウィッチ、スイーツが並べられている。これにドリンクが付いており、お洒落な女性達から高い人気を集めるメニューとなっている。こうしたレストランで1日の思い出をゆっくりと振り返るのも良いだろう。

## 美しい自然の中にある洗練された空間のホテル

佐島マリーナに併設されたホテルには清潔感のある客室と相模湾を望める展望風呂が完備されており、1日ならずとも週末、いや1週間ここに滞在してもいいとさえ思わせてくれる居心地の良さがある。部屋のタイプもバリエーションに富んでおり、用途に応じて使い分けもできそう。また、スイートルームともなると、天候が良ければバスルームから富士山を見ることがもできる。マイボートを買ってここを拠点にマリンスポーツが楽しめたなら、どれだけ充実した休日が過ごせるだろうか。美しい自然に恵まれた海域で、クルージングや釣りを楽しみ、マリーナに帰港後はホテルの美味しい食事や充実したステイを楽しむ。佐島で過ごすことが、こんなにも贅沢なのかと部屋から海を見ながらしみじみと考えてしまった。ボートに乗った日は家でゆっくり過ごすというのも良いが、洗練されたホテルにステイして、家族や仲間とともに、その日の思い出を語り合うというのも決して悪くはないだろう。



1. 天候さえ良ければホテルの屋上はもちろん、レストランや客室からも富士山を見ることができる。 2. 相模湾が一望できる大浴場は旅の疲れをそっと癒してくれる。ここから見える夕日は最高だ。



3. 部屋の左右にそれぞれツインベッドを配置したファミリールーム。 4. 居心地の良いリビングエリアと広めのツインベッドスペースを確保したデラックスツインルーム。 5. セパレートされた2つの部屋を持つスイートルーム。広くて清潔感もあり、オーシャンビューの浴室も備えている。 6. マリーナ併設のホテル内にある「ベイスайдレストランカフェ モア」では相模湾を眺めながら地元食材を中心とした美味しい料理を提供してくれる。 7. 葉山牛ハンバーグランチでは地産地消を掲げるレストランお勧めの葉山牛を使ったハンバーグが楽しめる。 8. スペシャルランチはメインの牛サーロインステーキの他にスズキのポアレもあり、白ワインとクリームソースと絶妙な相性をみせていた。傍には新鮮な地元の三浦野菜を添えている。 9. バーカウンターには様々なアルコールが並び、クラシカルな雰囲気のおかげで、素敵な時間を過ごすことができる。

## ボタン一つで簡単に ボートをコントロール 1軸TVASで 飛躍的にラクになる ボートフィッシング

トヨタマリンの操船支援システム1軸TVAS(トヨタバーチャルアンカーシステム)はコンピュータがボートの位置、風向き、潮流を判断し、自動で船体の位置や方向を保持してくれる非常に便利な機能である。そんな1軸TVASを使った釣りはどのくらいラクなのか。それを確かめる為、横須賀の海に出て、実際にボートフィッシングにチャレンジしてみた。



永浜いりあさん自らPONAM-28Vのハンドルを握る一幕も。凌波性抜群のハイブリッドハルは柔らかい乗り味も特徴の一つで、乗っていて本当に疲れにくい。



### 技術革新が進むボートの世界

近年ボートの技術革新が進むに当たり、クルージングの負担を減らすオートパイロットや嫌な横揺れを防ぐジャイロを搭載したボートを多く見かけるようになった。また、釣りのシーンにおいては最新鋭のGPS魚探やレーダーが確実に釣果アップ

に貢献しており、クルマだけでなく、ボートの世界でも日々優れた最新技術の開発が進められている。こうした技術は船長の負担を減らし、最大限のサポートまでしてくれるのである。今回は釣りガールの永浜いりあさんが、1軸TVASを搭載したPONAM-28Vに乗船し、実際に釣りを楽しみながらその優れた機能を体感した。



今回は釣りガールの永浜いりあさんが1軸TVASを使った釣りにチャレンジ!!バーチャルアンカーモードBを使い、見事に良型のホウボウを釣り上げた。



1.PONAM-28Vに搭載された1軸TVAS。操作も簡単で、ボタン一つで船体の位置をコントロールできる優れたものだ。 2.除湿機能付きのマリンエアコン完備で、冬でも暖かい。 3.船内は静粛性も高く、移動中の会話もしやすい。

### ターゲットは真鯛とホウボウ

出発地点となったのは神奈川県横須賀市にあるシティマリーナヴェラシス。ここからボートに乗って約20分で真鯛やホウボウが釣れそうなポイントへと移動する。撮影は寒さの厳しい冬に行われ、この日の最低気温はマイナス3度を記録。海上には時より冷たい風が吹き、多少波もあったせいか、ボートのポジションキープに手を焼きそうなコンディションであった。しかし、GPS魚探を見てみると、既にボートの真下には明らかに魚の反応がある。ここを何度か探ることができれば、簡単に釣果が得るのである。しかしながら、当日は潮の流れも速く、タイラバを落としても反応がある場所を攻められる回数は多くなさそうだ。当然ボートというのは風や潮によって流されてしまい、自然とポイントからも離れてしまうのだが、こんな状況下でこそ1軸TVASのバーチャルアンカーモードBの出番である。バーチャルアンカーモードBはGPSにより船体位置を検出し、コンピュータ制御で、船首を風や潮流の方向へ向け、一定の位置に船体を保持してくれる機能だ。たとえば風や潮流が変化しても、船首方向を自動

で調整してくれる為、エンジンの回転数をムダに上げることもなく、低推力、低燃費、低騒音で船体の位置を保ち続けてくれるのである。早速このモードを使うと、タイラバを落とした位置でボートがしっかりと止まってくれた。そして、タイラバを落とすこと僅か数投目には、いきなり永浜さんの竿に魚がヒット! 絶妙のタイミングで合わせのフッキングを決めると、数分のファイトの後には型の良いホウボウが上がってきた。このように、魚探の反応が出たポイントの上でボートをキープすることさえできれば、必然的に釣果アップの可能性は高まるものなのである。

### 東京湾でシーバスを狙う

このままの勢いで次は真鯛といきたかったが、肝心の真鯛の食いが殆どなく、海況も悪くなってきたため、東京湾内に移動し、シーバスを狙うことにした。大きな橋の周辺や岸壁沿いにはシーバスがいそうな雰囲気がプンプンしている。ここでは橋脚や岸壁に沿ってボートを流すことで釣果率をアップできると考え、バーチャルアンカーモードとバーチャルコンパスモード

を試してみることにした。バーチャルアンカーモードは船首が常に風上に向くように自動で制御され、流される方向や速度までコントロールできる機能で、まるでスパンカーを使った時のような流し釣りが快適に楽しめる。バーチャルコンパスモードは風向きや潮流に関係なく、指定した方向に船首を保持することができ、流される方向や速度もコントロールすることができる機能である。この2つの機能でシーバスを狙うと、スパンカーモードでは風を交わしながら橋脚を丁寧に攻めることができ、コンパスモードでは船首を希望する方向に向け、岸壁と適度な距離感をキープしながらキャストを繰り返すことができたのである。すると計算されたかのように、永浜さんの竿に続けざまにシーバスが掛かった。やはりポイントをイメージ通りに攻めることさえできれば、シーバスの目の前にルアーを通す回数も増え、結果的に釣果アップにも繋がるのではないかと感じた。



4.バーチャルアンカーモードとコンパスモードを使い分け、シーバスも2本ゲット。 5.撮影をサポートしてくれた神奈川トヨタ商事の松田さん。釣りの腕前はとても高く、この日は短時間で簡単にシーバスを釣り上げてしまった。

## 東京の街を海から眺める贅沢な時間

## LEXUS TOKYO PREMIUM CRUISE

2018年6月24日、東京都品川区のザ・クルーズクラブ東京で「LEXUS TOKYO PREMIUM CRUISE」が開催された。このイベントには関東圏在住のレクサスオーナーが招待され、3艇のPONAM-31に乗り、東京湾の観光スポットを周遊し非日常のクルージングを体験した。また、会場ではテレビCMで話題となったLEXUS Sport Yacht Conceptの展示も行われ、参加者から高い関心を集めていた。

## レクサスオーナーが過ごす極上のひととき

このイベントはレクサスオーナーに東京湾でのクルージングを通して、海の上での「非日常」を体験して頂くため、トヨタマリンと東京のレクサス店によって合同で企画・開催された。レクサスの持つラグジュアリーライフスタイルブランドというブランドイメージの醸成にも寄与しており、クルマとボートの両面で製品を開発しているトヨタならではの企画と言える。また、イベントに参加したレクサスオーナーにとっては、ブランドコンセプトを再認識でき、自らのステータスに対する満足感も感じられる機会となったのではないだろうか。



1.精巧に造られていたPONAM-28Vの模型。 2.エントランスを通過すると華やかなバーカウンターが迎えてくれる。 3.試乗の前には当日のスケジュールが説明された。 4.イベント当日の午前中は小雨が降ったが午後からは天候が回復し、絶好のクルーズ日和となった。

5.上質な雰囲気のレストランでランチを楽しむレクサスオーナー。 6.シェフが丹精込めて作った料理はどれも非常にクオリティの高いものになっていた。 7.会場ではLEXUS Sport Yacht Conceptのイメージ映像も流れ、スタート前から気分を盛り上げてくれた。 8.会場にはSUVタイプの人気車LEXUS RX450hも展示されていた。

## 見所が凝縮されたルート

今回のルートは東京湾のお勧めポイントを1時間で見学できる魅力的なルートになっており、出発地点となったザ・クルーズクラブ東京を出航した後は、羽田空港沖で航空機の離発着を見学した。ここでは風向きなどの条件にもよるが、運が良ければボート上空を航空機が通過する迫力ある光景を見ることができる。続けて、お台場方面へ向かいフジテレビを見た後、レインボーブリッジ付近まで来ると、参加者達は橋を背景にカメラやスマートフォンで写真を撮るなどして、満足そうな表情でお互いの顔を見合っていた。レインボーブリッジを通過後に東京湾を航行していると、オリンピックの選手村建設地や豊洲市場、更には東京タワーまで見ることができた。いつも車や電車で訪れている観光スポットもボートに乗って海から見ると、いつもとはまた違った輝きを見せてくれるのである。

## ボート所有で広がる世界

こうした絶景をプライベートで好きな時に好きだけ楽しめるのがボート購入のメリットの一つだ。自分の行きたいルートを事前に計画し、仲間や家族を誘い、自分の操船で目的地を目指すのである。ゲストを乗せて目的地に到着した時の気分はきっと今まで味わったことのない達成感をあなたに感じさせてくれるだろう。今回の試乗会では当初の予定日が雨により順延になったにも関わらず、18組の来場があり、実に半数がボートの購入に対して、「興味がある」と回答していた。2019年秋に米国、そして、2020年春には日本での販売が予定されるLEXUS Sport Yachtだが、日本で最初にオーナーとなるのはこうした普段からレクサスのブランドコンセプトに共感するレクサスオーナーの中にいるのかもしれない。



## いつもと違う場所から街を見る

海でボートに乗っていると、色々な景色に出会うことができる。目の前に広がる大海原や、美しい海岸線、有名な観光名所など、どれもきつと思い出に残るような素晴らしい景色ばかりだ。そして、クルージング中はこうした景色を陸上からは見られないような角度や位置から見られるのである。

1. お台場にあるフジテレビをバックに爽快な走りを披露してくれたPONAM-31。 2. ドライバーズシートで滑走シーンをイメージする参加者。 3. 栈橋で展示された「LEXUS Sport Yacht Concept」はポートショーでは外観のみの公開だったが、この日は内装も披露された。 4. レインボーブリッジに向けて進むPONAM-31。アルミハルによる快適な乗り心地は参加者からも好評価を受けていた。 5. 羽田空港沖では海上から飛行機の離着陸を見学した。



富士綜合商事株式会社  
〒431-1202 静岡県浜松市西区呉松町1229  
TEL:053-487-0884 FAX:053-487-0820  
<http://www.marine-dealers.net/fuji-m/>

## FUJI MARINA

# 多種多様なマリンスポーツを楽しめる浜名湖で 365日いつでも出航可能な老舗マリーナ



販売～メンテナンスまで一人でこなせるスキルの高いスタッフ達が揃い、オーナーをきめ細かくサポート。浜名湖で人気の舘山寺温泉街から近く、泊まりのレジャーにも最適。

1974年に設立した老舗マリーナとして、これまで長年に渡り浜名湖での遊び方をオーナー達に提案し続けている。熟練したメンテナンス技術は業界内でも高い評価を受けている。

## 「汽水湖」の浜名湖で 1974年に設立

静岡県西部に位置する浜名湖は穏やかな湖面と綺麗な水質が魅力で、クルージングはもちろん、湖内でもボートフィッシングが楽しめるマリンレジャーのメッカとも呼べるフィールドである。浜名湖はもとも淡水の湖であったが、1498年に地震で砂州が決壊したことで、外海からの海水が淡水湖に流入し、汽水湖となった。汽水湖になったことで、淡水と海水の豊富な栄養素が集まるようになり、今日までに多くの魚が湖内に生息するようになった。そんな浜名湖エリアに1974年に誕生したのが、静岡県浜松市にある富士マリーナ

だ。設立当初はディンギーヨットのオーナーを受入れることから始まり、時代の流れとともにモーターボートや水上バイクが入り、昨今ではビッグボートもマリーナ内で見られるようになった。

## 浜名湖の魅力

浜名湖の魅力は何と言っても穏やかな湖面と美しい自然である。湖内には「礫島」や「弁天島の鳥居」といったクルージングスポットがいくつもあり、週末はクルージングを楽しむボートやヨットで賑わいをみせる。また、湖内でもシーバス、ヒラメ、マゴチ、ハゼといった様々な魚が釣れるので、外海で釣りをするのが難しい場合でも湖内で釣り

が楽しめるのである。そして、浜名湖はほぼ360度を陸に囲まれているため、入江などで風を交わしやすいのも特徴の一つだ。ゲストに家族連れがいる時などは風が出てきたらあまり無理をせず、入江で風をかわしつつ、ハゼやキスを釣るだけでもきっと喜んでもらえるだろう。



マリーナには充実した設備が揃っており、フィッシングボート～サロンクルーザーはもちろん、大型のヨットやウェイク艇まで幅広く艇置している。



1.ポーターシリーズの取扱も多く、オーナーの希望を聞いた上で、最適なボートと遊び方を提案してくれる。 2.テラスからはマリーナに面した浜名湖の内浦湾が見える。 3.メンテナンス力には定評があり、スタッフが1艇ずつ親身にフォローしてくれる。 4.12tクレーンも完備しており、スムーズな揚降が可能だ。 5.クラブハウスでは販売～艀装・メンテナンスまで、一貫して同じスタッフに相談することもできる。

## マリーナが考える ポーターの魅力

ここではマリーナスタッフの安間さんにご協力頂き、ポーターの魅力について様々な質問を投げかけ、感想をお聞きした。まず、走行性能に関してお聞きますと、「アルミハル、ハイブリッドハルのどちらも非常に高い強度があり、乗っていて楽ですし、エンジン音もとても静かで、キャビン内では会話もスムーズです。」と乗り心地と静粛性を高く評価する声を聞くことができた。続いて居住性能に関して聞いてみると、「キャビンデザインはとても質感が高いですし、何よりエアコンが標準装備であれだけ効き目が高いと本当に便利です。」と内装のデザイン性の高さと、エアコンの利便性を褒める声が聞こえてきた。続けてメンテナンス面についてもお聞きますと、「トヨタさんはディーラーへのサポート体制が本当にしっかりしているので、複雑な修理でもスムーズに進めることができ、いつも大変助かっています。」と日頃からの手厚いサポート体制に感謝する言葉が聞けた。続けて、「そもそも、ポーターシリーズは通常点検さえしていれば、大きな修理はうちではほとんど出ません。エンジンのトラブルも本当に少ないので、マリーナとしても凄く安心してます。

富士マリーナの安間雅俊さん。とても爽やかな人柄で、分かりやすくマリーナの魅力を紹介して頂いた。誠実に仕事に取り組む姿勢で、オーナーからの信頼も厚い。

むしろ、ボートが壊れなさすぎて、お客さんがポーターは壊れないものだと思われすぎていないかが、たまに心配になります(笑)」とポーターの信頼性の高さを評価するコメントも頂いたのである。

## 頼りになるスタッフと 信頼関係を築く

富士マリーナは先の項目でもお伝えした通り、1974年から続く老舗マリーナで、家族経営ならではのアットホームな環境が自慢だ。また、販売～メンテナンスまでトータル的な知識を持ったスタッフが常駐しており、スタッフと信頼関係を築くことができれば、自分のボートは全て彼に任せれば大丈夫だという安心感を持ちながらマリナライフを楽しめるのだ。例え、ボートに心配な箇所が出てきた際でも、時間さえあればその場でチェックしてくれるため、「後でサービスマンに伝えておきます。」という工程は間に入らない。出航は365日可能になっており、浜名湖での様々なマリプレイ提案もしてくれるので、自分が満足するまで存分に「浜名湖」楽しむことのできるマリーナとなっているのだ。





PREMIUM SPORT CRUISER

PONAM-28V



「プレミアムスポーツクルーザー」として開発された「PONAM-28V」はFRP、アルミ材、カーボン繊維の3種類をバランス良く使用したトヨタハイブリッドハルを採用しており、従来のアルミハルに比べ、同等以上の剛性感と凌波性を実現、船体重量の軽量化にも成功した。そして、1基掛けエンジンでは世界初となる1軸TVASを開発し、シリーズ初となる2.8ftクラスに設定した。エンジンはランドクルーザープラド(海外向け)のエンジンを船舶用にチューニングし、自動車ですでに培った技術を応用して、業界最高レベルの除湿機能付きマリンエアコンを搭載している。船体のデザインはカーデザインで採用されている複雑な3D曲面により、立体的なフォルムと曲線美を追求し、美しいデザインに仕上がっている。



|                  |                       |
|------------------|-----------------------|
| 全長／全幅            | 9.14m／3.16m           |
| 総トン数             | 3.8トン                 |
| エンジン型式(ディーゼル)    | M1KD-VH               |
| 排気量              | 2,982cc × 1基          |
| 最高出力             | 191kW(260PS) × 1基     |
| 使用燃料             | 軽油                    |
| ハル               | トヨタ ハイブリッド ハル         |
| 燃料タンク容量          | 330リットル               |
| 清水タンク容量          | 56リットル                |
| 定員               | 12名                   |
| 航行区域             | 平水、限定沿海、沿岸            |
| 本体メーカー希望小売価格(税抜) | Gパッケージ<br>22,000,000円 |



PREMIUM CRUISER

PONAM-35



PONAM-35は外洋でのトロリーリングなど走る喜びを味わうアクティブ・クルージングから、季節の香りを五感に感じながら、ご家族やご友人、女性にも喜ばれるラグジュアリーで優雅なクルージングまで楽しめるモデルである。一步サロンに入ると、スタイリッシュな空間から非日常で贅沢な時間を感じる事が可能で、開放感ある空間で思い思いの上質な時間を過ごす事が出来る。また、キャビン奥に配置されたギャレーはシンク、電子レンジ、調理スペースの他に大容量冷凍・冷蔵庫が設置されており、ポートステイも十分楽しめそうだ。テクノロジーの面においても、従来のトヨタドライブアシストにバーチャルアンカーシステムを追加し、トヨタマリン独自の操船支援システムを充実させている。



|                  |                   |
|------------------|-------------------|
| 全長／全幅            | 11.95m／3.94m      |
| 総トン数             | 10トン              |
| エンジン型式(ディーゼル)    | M1VD-VH           |
| 排気量              | 4,461cc × 2基      |
| 最高出力             | 272kW(370PS) × 2基 |
| 使用燃料             | 軽油                |
| ハル               | アルミ合金製            |
| 燃料タンク容量          | 850リットル           |
| 清水タンク容量          | 170リットル           |
| 定員               | 12名               |
| フライブリッジ          | 5名                |
| 航行区域             | 沿海                |
| ヘルムステーション        | 2                 |
| インテリアカラー         | 木目調               |
| 本体メーカー希望小売価格(税抜) | 65,100,000円       |



SPORT UTILITY CRUISER

PONAM-31



海における「Fun to Drive」。PONAM-31はこの言葉通り、「スピード」「乗り心地」「居住性」の全てにこだわり抜いた、「走りの楽しさ」を体感出来るボートだ。抜群のスピードがありながら安定した走行性は、海との一体感を味わえ、スポーティーな走りを十分に楽しめる。また、クルージングやフィッシングなどのアクティビティだけでなく、機能的で開放感のあるキャビンではラグジュアリーで快適な時間を過ごす事も可能だ。他にもオプションでトヨタドライブアシストやトヨタバーチャルアンカーシステムを装着可能で、これによって飛躍的に操船の負担も減り、レジャーを楽しむ時間が増えそうだ。まさにスポーツユティリティクルーザーの名に相応しい新しい可能性を秘めた1艇と言える。



|                  |                   |
|------------------|-------------------|
| 全長／全幅            | 10.57m／3.20m      |
| 総トン数             | 6.6トン             |
| エンジン型式(ディーゼル)    | M1KD-VH           |
| 排気量              | 2,982cc × 2基      |
| 最高出力             | 191kW(260PS) × 2基 |
| 使用燃料             | 軽油                |
| ハル               | アルミ合金製            |
| 燃料タンク容量          | 620リットル           |
| 清水タンク容量          | 110リットル           |
| 定員               | 12名               |
| フライブリッジ          | 5名                |
| 航行区域             | 沿海                |
| 本体メーカー希望小売価格(税抜) | 29,700,000円       |

※掲載内容は2018年8月現在のものです。 ※写真には撮影用小物、オプションパーツ等を含む事があります。

# 中古艇をお探しなら、 安心のトヨタ認定中古艇

TOYOTA MARINE  
**CUB**  
Certified Used Boat



※画像はイメージです

安心1  
**検査**

Inspection

安心2  
**整備**

Maintenance

安心3  
**保証**

Warranty

トヨタマリン営業所直販のトヨタポーターシリーズを対象とし、  
トヨタ独自の厳しい品質基準をクリアした中古艇のみご紹介いたします。

## トヨタ認定中古艇の3つの安心。

チェック項目を3段階評価

**A** 問題なし **B** 修理、調整で対応可 **C** 部品交換が必要

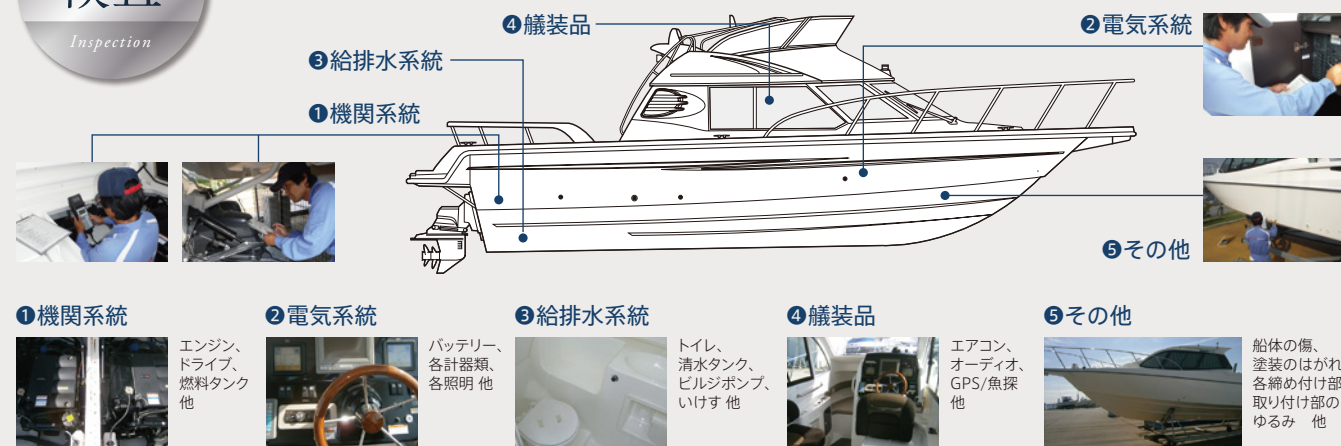
### 厳しい眼で徹底的にチェック

安心1

**検査**

Inspection

機関系、電気系、給排水系、艀装品など約100項目を、トヨタマリン営業所の熟練スタッフが厳しくチェックいたします。



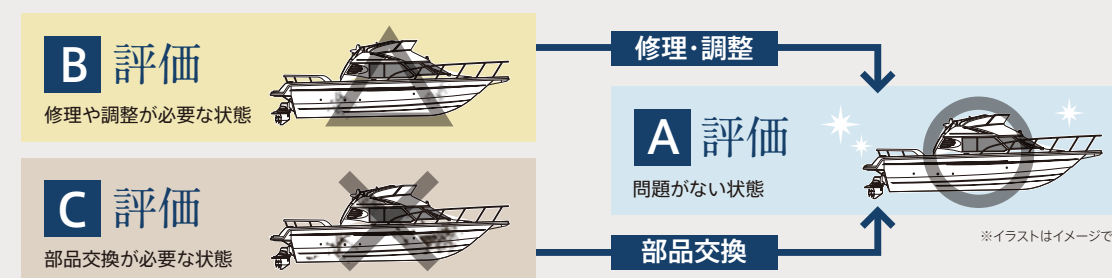
### 中古艇だからこそ、しっかり整備

安心2

**整備**

Maintenance

チェック項目で、「B」評価、「C」評価の箇所について、「A」評価の「問題なし」の状態にまで整備いたします。



### 購入後の安心はトヨタマリンの強み

安心3

**保証**

Warranty

トヨタマリン営業所直販のポーター中古艇には**ボートメーカーによる品質保証**をお付けしております。  
購入後も安心のマリンライフをサポートいたします。

| 保証条件                                               | 保証期間                               | 保証内容※                                                   |
|----------------------------------------------------|------------------------------------|---------------------------------------------------------|
| 新艇納艇後から <b>5年未満</b> かつ<br>アワーメーター <b>750時間未満</b>   | お客様引渡日<br>または ①アワーメーター100時間<br>6ヶ月 | 標準装備 及び<br>中古艇販売時に<br>施工した装備品を<br><b>無償修理・<br/>部品交換</b> |
| 新艇納艇後から <b>7年未満</b> かつ<br>アワーメーター <b>1,000時間未満</b> | お客様引渡日<br>または ①アワーメーター50時間<br>3ヶ月  |                                                         |

※詳しい保証内容は、トヨタマリン営業所までお問い合わせください。

### トヨタ認定中古艇をご検討中のお客様へ

不安に思う事や、不明点などありましたら、お気軽に右記まで  
お問い合わせください。スタッフが丁寧にお答えいたします。

トヨタマリン営業所



**0120-532-451**

営業時間 9:45～17:30  
(定休日:水・木曜日)  
〒443-0014 愛知県蒲郡市海陽町2-1

トヨタマリンホームページ <http://www.toyota.co.jp/marine/>

# EDITOR'S VOICE

これまでにトヨタマリンのポーナムシリーズを通して、様々なマリンライフのご提案をしてきた「Ocean Style」が、今回2年半振りに発行されることになりました。多くの皆様から復刊のご要望を頂いておりましたが、再び皆様に素敵なマリンライフのご提案ができることを心から嬉しく思います。「Ocean Style」をお読み頂くことで、ポーナムシリーズの魅力はもちろんのこと、「海の素晴しさ」や「マリンレジャーの面白さ」もお伝えできればと思います。

編集長 池淵 弘  
2018年8月



TOYOTA MARINE  
Ocean Style

広 告

発行人  
トヨタ自動車株式会社

編集長  
池淵 弘（マリン事業室）

企画・製作  
M's PLANNING inc.

フォトグラファー  
矢部洋一／福地和男／石川三紘／石川雄基

ライター  
中田雅博／石川雄基／神谷 仁

デザイン・レイアウト  
野口浩司／加藤憲明

取材協力

P14-17 マリンスポーツの魅力とは  
檜扇 荘  
三重県志摩市阿児町鶴方943  
TEL. 0599-43-0077  
<http://hiogiso.com>

P18-21 PONAM-28Vで船上ランチのススメ  
佐島マリーナ株式会社  
神奈川県横浜市中区磯子3-7-4  
TEL. 046-857-8100（マリーナ）  
TEL. 046-857-1615（レストラン）  
<http://www.sajimamarina.com>

P22-23 1軸TVASで飛躍的にラクになるポートフィッシング  
神奈川トヨタ商事株式会社  
神奈川県横浜市神奈川区浦島丘3番地30  
TEL. 045-423-2411  
<http://www.kanagawatoyota-s.co.jp>

P24-27 LEXUS TOKYO PREMIUM CRUISE  
株式会社 クルーズクラブ東京  
東京都品川区東品川2-3-16 シーフォースクエア1階  
TEL. 03-3472-8100  
<http://cctokyo.co.jp>

P28-29 マリーナ探訪  
富士総合商事株式会社 富士マリーナ  
静岡県浜松市西区呉松町1229  
TEL. 053-487-0884  
<http://www.marine-dealers.net/fuji-m/>